芸　　術

1　学習指導と評価における課題

平成28年８月に公表された、「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」（中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会）（以下、「審議のまとめ」という。）において、現行の学習指導要領における芸術科の課題が次のとおり示された。芸術科では、こうした課題の解決に向け、学習指導と評価の一層の工夫・改善を図っていく必要がある。

＜現行の学習指導要領における課題＞

【音楽】・感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりしていくこと
・我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを一層味わえるようにしていくこと
・生活や社会における音や音楽の働き、音楽文化についての関心や理解を深めていくこと

【美術・工芸】
・感性や想像力等を豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成すること
・生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わる態度を育成すること

【書道】・書の伝統と文化を踏まえながら、生徒が感性を働かせて、表現と鑑賞の相互関連を図りながら能動的に学習を深めていくこと
・書への永続的な愛好心を育むこと

2　育成すべき資質・能力を踏まえた学習指導・評価の改善・充実

［音楽］

(1) 教科において育む資質・能力を踏まえた指導の改善・充実

次の図は、「審議のまとめ」で示された音楽科における生徒に育成すべき資質・能力をイメージ化したものである。

音楽科における見方・考え方

感性を働かせて、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で音や音楽を深く捉える
○ 音楽的な特徴とそれにより喚起されるイメージについて考える
○ 芸術としての音楽とその文化的・歴史的背景との関わりについて考える

このような見方・考え方を全ての音楽の学習の基本的な手がかりとしながら…

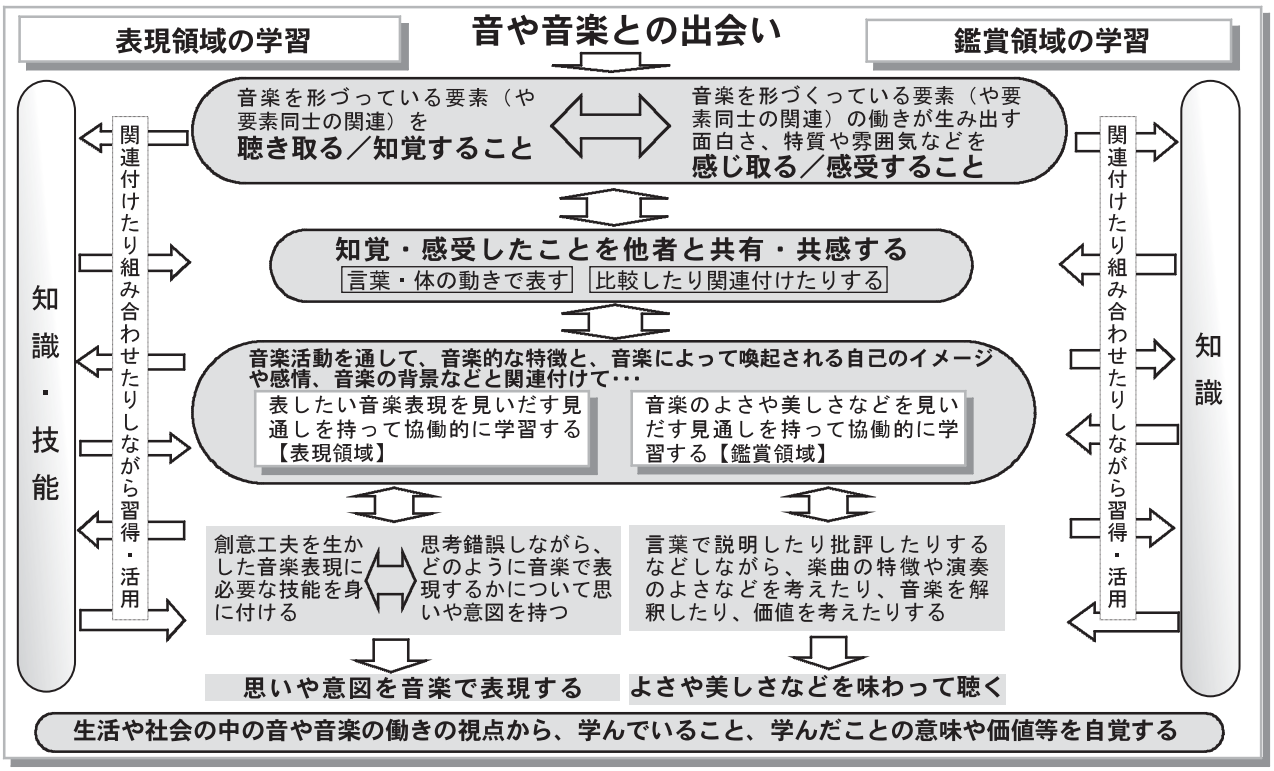
⇩

育てたい資質・能力

音楽の幅広い活動を通して、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばすと共に、生活や社会の中の音や音楽の働きや音楽文化についての理解を深める資質・能力を育成する

【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力等】	【学びに向かう力・人間性等】
・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり及び表現方法の多様性などの音楽文化についての理解 ・創意工夫したり、音楽で表現したりするための技能　など	・音楽を形づくっている要素等を知覚し、それらの働きを感受しながら音楽表現を創意工夫すること ・音楽のよさや美しさを味わって音楽の意味や価値を創造すること　など	・音楽の学習に主体的に取り組む態度 ・協働して音楽活動する喜びの自覚 ・音や音楽のよさや美しさなどの質的な世界を価値あるものとして感じ取る感性　など

こうした資質・能力を育むためには、音楽的に思考・判断し表現する一連の過程を重視した授業を実施することが大切である。その際、学習を振り返り、学んだことの意味や価値を自覚させ、次の学習につなげていくこと（主体的な学び）、互いに気付いたことや感じたことなどについて言葉や音楽で伝え合ったり、音楽的な特徴について共有したり、感じ取ったことに共感したりすること（対話的な学び）、生徒が音や音楽と出会う場面を大切にし、音楽と主体的に関わることができるようにすること（深い学び）の３つの視点で授業の工夫・改善を図ることが大切である。



(2) 学びの過程を重視した題材の指導と評価の計画

こうした授業の工夫・改善を効果的に行うためには、学びの過程を重視し、学習指導計画に習得、活用、探究といった場面を明確に位置付けることが有効である。

ここでは、音楽Ⅰの題材「交響楽の楽しみ」において、生徒が主体的に学ぶ態度を育成するために、A表現及びB鑑賞の両領域を横断的に学習し、習得した原語歌唱のポイントや歌詞を、楽曲全体を知覚、感受するための手がかりとして活用し、より深い表現を探究する学習へとつなげる学習指導計画の例を示す。

【学びの過程（学習プロセス）を明記した学習指導計画の例】

題材名	交響曲のたのしみ（音楽Ⅰ）
教材	交響曲第９番二短調作品125（L.v.ベートーヴェン）
題材の目標	作品の歌唱や鑑賞を通して、音楽的な特徴と喚起されるイメージや感情、楽曲の背景等との関わりについて主体的に考え、思いや意図を表現する。
対応する学習指導要領の指導事項	A表現（１）歌唱アエ　B鑑賞アイウ
共通事項に相当する項目	音色、旋律、テクスチュア、形式

全体計画

題材全体の学習指導		学習プロセス	評価の位置付け			
			○評価規準　【主な評価の対象】			
時間	学習活動		音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
1	「歓喜の歌」の歌唱を通して、歌詞の内容や楽曲の持つ特質や雰囲気を感じ取る。		①歌唱への主体的取組【観察】			
2	前時の学習を発展させ、原語歌唱の特徴的な表現技能を身に付ける。	習得		習得	①創造的な音楽表現の技能【発表】	
3	交響曲の形式、作品の背景、構造及び主要主題について学習する。		②学習内容への関心【ワークシート】			
4	第４楽章を鑑賞し、知覚、感受した内容をワークシートにまとめる。	活用	探究		活用	①知覚感受を支えとした鑑賞【ワークシート】
5	全曲を鑑賞し、これまでの学習のまとめとして批評文を作成する。	探究				②批評文の作成【ワークシート】
6	「歓喜の歌」について、交響曲の一部であることに留意し、合唱する。	探究		①知覚感受に基づく創意工夫【発表】		

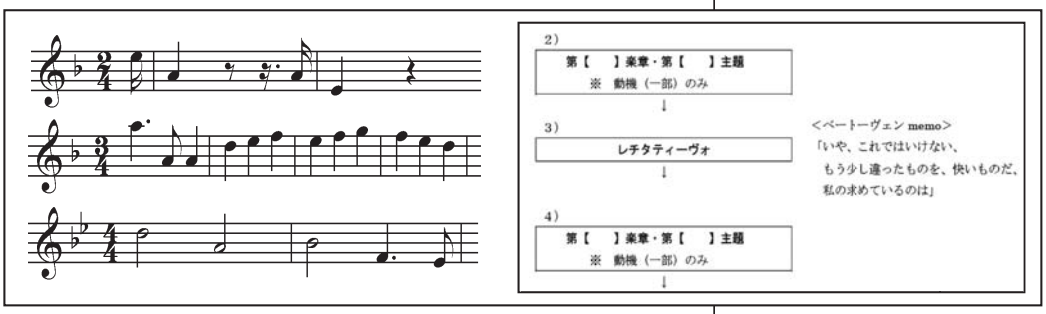
(3) 「アクティブ・ラーニング」の視点からの学習・指導方法の改善

次に、前項で示した学習指導計画において、前時までに学習した主題や歌詞などの情報を活用し、生徒が主体的に楽曲の構造を把握する学習を通して、生徒の学習意欲を高め、理解を深めることに効果的な「主体的な学び」の事例を示す。

実践例・音楽Ⅰ【交響曲のたのしみ】

（ねらい）　主要主題や歌詞を手がかりに、オーケストレーション（音色）や動機・主題（旋律）の変化に着目し、和声（テクスチュア）や楽式（形式）を知覚し、それらの働きを感受しながら鑑賞する。

学　習　活　動	評　価　規　準
・第１～３楽章の主要主題について復習する。	
・第４楽章の構造について、主として歌詞を手がかりに理解し、全体像を把握する。	総譜やワークシートを活用し、学習のポイントが明確になるよう工夫する。
・第４楽章を鑑賞し、それぞれの場面で知覚、感受した内容をワークシートにまとめる。	現在の演奏箇所をリアルタイムに映示するなど、ＩＴＣの活用により、生徒の理解が効果的に進むよう支援する。
・ワークシートの内容を共有し、他の生徒の知覚、感受した事柄を参考に、ワークシートを整理する。	鑑①音色、旋律、テクスチュア、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気等を感受しながら、交響曲の特徴と表現上の効果との関わりを感じ、楽曲を解釈したり、味わって聴いたりしている（ワークシート）。



12)　歓喜の主題Ａ（バリトン）

喜びよ、美しい神々の閃光よ
Freude, schöner Götterfunken,
楽園の世界の娘よ
Tochter aus Elysium,
我々は足を踏み入れ炎に酔いしれつつ
Wir betreten feuertrunken,
天なるものよ、あなたの聖所へと
Himmlische, dein Heiligtum!

主体的な学び

対話的な学び

本時で作成したワークシートをもとに、次回批評文を作成する活動を行うことで「深い学び」へと発展させる。

また、次回作成する批評文の評価をもって題材全体の評価とし、次の題材における授業改善へ向けてのＰＤＣＡサイクルを効果的に機能させることができる。

［美術・工芸］

(1) 教科において育む資質・能力を踏まえた指導の改善・充実

「審議のまとめ」において、美術・工芸における生徒に育成すべき資質・能力が示され、「美術」においては次のように整理された。

【美術における育成されるべき資質・能力】

知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について実感的に理解を深めること ・感性や美的感覚、造形感覚を働かせて、材料や用具、表現方法を生かして、創造的に表すこと　など
思考力・判断力・表現力等	・感性や美的感覚、想像力を働かせて、造形的な視点で対象や事象を捉え、造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、主題を生成し、創造的な表現の構想を練ること　など
学びに向かう力・人間性等	・様々な対象や事象からよさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る感性 ・美術の創造活動の喜び ・芸術としての美術の創造活動に主体的に取り組む態度 ・生涯にわたり美術を愛好する心情　など

こうした資質・能力を育むためには、現行の学習指導要領に基づき、創造することの楽しさを感じるとともに、思考・判断し表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てることや、生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心を持って、生涯にわたり主体的に関わって行く態度を育むことなどを一層充実させる必要がある。

(2) 学びの過程を重視した単元（題材）の指導と評価の計画

(1)に示した資質や能力を育成するためには、感性や想像力を働かせて、形や色などの特徴やイメージなどと幅広く関わり、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら学習するといった学びの過程が重要である。

ここでは、美術Ⅰの単元「セルフサイン」において、鑑賞や対話的な学習を通して習得した知識を活用し、「A表現(2)デザイン」と「B鑑賞」とを相互に関連させ、主体的に創造活動に取り組む姿勢を高める過程を重視した学習指導計画の例を示す。

【美術Ⅰの単元「セルフサイン」における学びの過程（学習プロセス）を明記した学習指導計画の例】

(1) 単元の目標

自分自身から想起される「自己のイメージ」をワークシートや他者との対話を活用することによって、より一層明確化し、自分を表す「セルフサイン」としてデザインする。

また、他者との関係も意識したデザインを行うことで、独創的な表現の工夫について取り組み、完成後互いの作品を鑑賞し作品のよさを味わい、相手の理解を深める。

(2) 単元の評価

学習活動に即した評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
表現　関①　生活の中にあるデザインについて理解しようとする。 表現　関②　「セルフサイン」というテーマをもとに、自己の内面を見つめて表現することに関心を持ち主体的に主題を生成し、形体、色彩、構成など工夫して創造的な表現の構想を練っている。 表現　関③　技術や材料、用具の特性や効果を生かし、表現の追求をして表現している。 鑑賞　関④　生徒の作品のよさや意図、表現方法について関心を持ち、理解を深めようとする。	発①　テーマをもとに、自己の内面を見つめて感じ取ったことや考えたことから主題を生成している。 発②　主題を効果的に表現するために表現形式を工夫して構想を練っている。	創①　表現したい意図を大切にして、より効果的な表現方法を選択・活用し、工夫して主題を追求している。 創②　技法や材料、用具の特性を理解し、目的や意図に応じて、その効果を生かした表現をしている。	鑑①　他の生徒の作品などのよさ、作者の心情や意図、表現の工夫などを感じ取り、作品に対する見方や感じ方、考え方などを持ち、理解を深めている。

(3)　指導と評価の計画（10時間）

学習のねらい	学習プロセス	学習活動に即した評価規準				評価に関する留意事項【評価方法・評価資料】
		関	発	創	鑑	
1．課題の把握と発想・構想①（1時間） ●課題について理解する。 ・様々なカントリーサインやロゴマークを鑑賞し、意図や表現の工夫についてグループ内で意見交換を行う。	習得	関①				●美術への関心・意欲・態度 関①　題材に関心が持てない、発想が広げられない生徒を把握することに重点を置き、生徒の関心や意欲が高まるように工夫する。 【意見を述べ合う様子、ワークシート】
2．発想・構想②（2時間） ●主題を生成する。 ・ワークシートの活用やグループごとの自己紹介やインタビューなどから相互の内面を引き出し、自分を再認識する。 ●主題をもとに、構想を練る。 ・ワークシートの中から主題をしぼり、アイディアスケッチを行う。	活用	関②	発① 発②			●発想や構想の能力 関②　主題を生成し、意図にあった形体、色彩、構成など工夫して創造的な表現の構想を練っているかを見取る。 発①　主題が生成できていない生徒には援助を行う。【意見交換、ワークシート】 発②　主題を効果的に表現するために表現形式の特性を生かし、工夫して構想を練っているか見取る。 【アイディアスケッチ】
3．制作（5時間） ●構想を基に、意図にあった表現方法を工夫する。 ・アイディアスケッチをグループ内で回覧し、他者に対して視覚的にテーマが伝達できているか問題点・解決策を話し合う。（主題と表現の一致） ・発表に向けて、制作過程を整理する。 	探究	関③		創① 創②		●美術への関心・意欲・態度 関③　表現の目的や意図に応じて、技術や材料、用具の特性や効果を活かし、表現の追求をしているかを見取る。 【制作の様子】 ●創造的な技能 創①　表現の意図や目的に応じて、画材や技法など工夫して表現しているかを見取り、工夫できない生徒には構想の見直しを指導する。 創②　主題を追求して表現しているかどうか見取り、完成に近づいた段階で評価を確定する。
4．発表及び鑑賞、審査（2時間） ●相互の発表を鑑賞し、主題・意図・表現の工夫などを感じ取り、理解を深める。 ・自分の個性や考えを発表し、質問・感想、表現について意見交換を行う。 ・発表の批評文を交換し、自分の発表の反省・感想をまとめる。 ・発表を聞いた後、作品を生徒同士で審査する。	探究	関④			鑑①	●美術への関心・意欲・態度 関④　鑑賞への関心を持っているかを鑑賞の活動やグループ活動の様子から見取り、鑑賞への意欲が高まらない生徒を指導する。 【鑑賞の様子】 ●鑑賞の能力 鑑①　他者の作品に対する自分の意見を根拠に基づいて述べるなど、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取っているか見取る。 【ワークシートや発言内容】
〈授業終了後〉 ●評価 ・アイディアスケッチなどの評価 ・完成した作品の評価 ・ワークシートなどの評価 ・発表、審査による評価 ●その他 ・地域文化行事への作品展示、参加			発①	創① 創②	鑑①	発②　創①　創②　の評価では、完成作品から再度評価し、授業内の評価を確認し、必要に応じて評価を修正する。主題の意図や構想の工夫をワークシートなどと合わせて見取るなどの工夫も大切である。

「関」は「美術への関心・意欲・態度」、「発」は「発想や構想の能力」、「創」は「創造的な技能」、「鑑」は「鑑賞の能力」を示している。

(3) 「アクティブ・ラーニング」の視点からの学習・指導方法の改善

生徒が造形や美術の幅広い見方を獲得するには、鑑賞や対話的な活動等を通し、生活に関わる美術の働きや美術文化への実感的な理解を深める必要がある。

ここでは、美術Ⅰの単元「セルフサイン」において、作品発表による意見交換や批評文の作成、ワークシートのまとめなどを活用し、相互の理解を深め、幅広い見方や作品を深く味わう態度を育成するために効果的な授業の事例を示す。

実践例：美術Ⅰ【セルフサイン】

① 本時の目標　作品を通して相互の理解を深め、作者自らの考えを広げ、課題解決につなげる。

② 本時の展開（10時間/10時間）

時間配分	学習活動	指導上の留意点
導入 ５分	1　発表形態の説明 2　評価表及び評価の規準の確認、評価方法の説明	・声の大きさ、内容、時間配分などにも十分配慮させる。 ・評価規準を明確にし、発表者・鑑賞者相互が充実した鑑賞となるよう意欲を高める指導をする。
展開 40分	3　作品を持って、列ごとに席を回って全員に見せる。 4　作品発表を行う ・質疑・応答、意見交換、審査 5　批評文の交換	・事前に間近で作品を見ることで、鑑賞ポイントの確認や発表後に見る作品の印象との相違を意識できるようにする。 ・質問や意見が自由に出し合える雰囲気をつくるため、生徒の様子に気を配る。 ・お互いに作品の意図や創意工夫を理解し、よりよい作品を作るための課題を明確にできるように促す。
まとめ ５分	6　ワークシートのまとめ 自己評価をする	・他者の見方を理解し、改善点を見付け、課題解決に向けた方策を発見できるようにまとめさせる。

評価：自らの学習活動を振り返って、主体的に次につなげる課題とその解決策を見付けているか見取る。

③ 発表後の意見交換（ワークシート例）

美術Ⅰ	「セルフサインを作ろう」（A表現(2)デザイン　B鑑賞） ワークシート（2）「鑑賞」	1年　　○組　○番 氏名　○　○　○　○
1　テーマについて	『セルフサイン』を作ろう	
発表を終えてアンケートから得た感想・意見をまとめよう。	良い点	・３歳から合気道を習っていたことを初めて知った。 ・絵にはその熱心な取組がよく表れていると思った。
		・彩度・明度など色の知識を生かして制作されていてよかった。
	改善点	・声が小さく、聞き取りにくかった。工夫した点が分かりづらかった。
		・背景にまで気を遣って構成されているが、色彩が単調で物足りない。 ・背景の印象が薄い。
全体を通し自分の反省・感想をまとめよう。	・発表するに当たって、事前の準備が足りずに言葉に詰まったので、原稿を準備すべきだった。 ・声の大きさにも工夫すべきだった。 ・完成作品に満足しているが人を目立たせるため、背景の色彩をシンプルしたところ、印象に残らないと感じる人もいたことが分かった。	

発表前に評価する観点を明確にし、感想・改善点を引き出せるように指導する。

［書道］

(1) 教科において育む資質・能力を踏まえた指導の改善・充実

「審議のまとめ」では、書道において育成すべき資質・能力について、次のように示された。

【書道における育成すべき資質・能力】

知識・技能	・書の表現方法、形式、書表現の多様性などについて理解したり、生活や社会の中での文字や書の働き、書の伝統と文化について書の特質に即して理解したりすること　など
思考力・判断力・表現力等	・書のよさや美しさを感受し、書を構成する要素やそれらが相互に関連する働きの視点で捉えるなどして、感性を働かせながら、自らの思いや意図に基づいて構想し、表現を工夫すること ・書のよさや美しさを感受し、書を構成する要素やそれらが相互に関連する働きの視点で捉え、歴史的背景、生活や社会、諸文化などとの関わりから、文字や書の伝統と文化の意味や価値を考えるなどして、書を味わって深く捉えること　など
学びに向かう力・人間性等	・書の特質に根ざし、よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る感性 ・書の創造的活動の喜び ・芸術としての書の創造活動に主体的に取り組む態度　など

こうした資質・能力を育むためには、現行の学習指導要領に基づき、書の文化の継承と創造への関心を一層高めるために、書の文化に関する学習の充実を図るとともに、豊かな情操を養い、感性や想像力を働かせながら考えたり判断したりする学習を行うことが大切であり、更なる学習指導の工夫・改善が求められている。

(2) 学びの過程を重視した題材の指導と評価の計画

こうした指導の改善に向けて、表現領域では、知識や技能を活用しながら、自らの意図に基づいて構想し表現を工夫していく学びの過程を、鑑賞領域では、書表現を創造的に味わうことを通して、文字や書の効用を生活の中で生かすなどの学びの過程を、それぞれ重視することが大切である。

ここでは、書道Ⅰの題材「文房四宝」において、墨・硯・筆・紙の職人達によるものづくりの叡智を習得し、それらを効果的に活用し、幅広い表現活動を通して探究する学びにつなげることで、効果的に書の伝統と文化についての価値を感受する資質の育成を図る学習指導計画の例を示す。

【書道Ⅰの題材「文房四宝」における学びの過程（学習プロセス）を明記した学習指導計画の例】

題材名	文房四宝　～磨墨から平仮名を書く～
教材	文房四宝（墨・硯・筆・紙）
題材の目標	文房四宝の鑑賞と体験学習を通して、書の伝統と文化についての価値を知り、日常社会との関わりや、感性を働かせて、書のよさや美しさを感受し、創造的に味わい表現と鑑賞の能力を身に付ける
対応する学習指導要領の指導事項	第１時　Ｂ鑑賞・ウ 第２時　Ａ表現　（3）仮名の書　ア 第３時　Ａ表現　（3）仮名の書　ア・イ　　Ｂ鑑賞　ウ

全体計画

題材全体の学習指導		学習プロセス	評価規準			
時間	主な学習活動の展開（学習形態）		関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
1	ＤＶＤ教材を用いて職人の作業工程を理解し、用具・用材についての見方・考え方、価値について整理する。	習得	基本的な用具・用材に関する知識や扱い方を理解しようとしている。 用具・用材と表現との関係に関心を持ち理解しようとしている。	鑑賞から、用具・用材の扱い方や活用方法について理解させ評価する。	書の伝統と文化についての理解をまとめさせ評価する。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し文房四宝の価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
2	磨墨したときの墨色や、にじみ等について線でその効果を味わい、磨墨と墨液との風合いの違いに気付く。	活用	書の創造的活動の喜びを味わい用具・用材と表現との関係に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	墨のよさ美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	磨墨の学習体験を通して、墨液と固形墨との相違点に気付かせ、墨のよさについてまとめさせ、評価する。	個人での学習とグループでの学習の相互の学びを通して個人でまとめたことを評価する。
3	平仮名の基本的な筆使いを学び、仮名用紙を用いて、日本の平仮名を小筆で味わい、美に対する感性を養う。	探究	グループ学習を通して、互いに共通の学習を実践させ、その効果やよさについてグループ発表を通して評価する。		創造的な書表現をするために、用具・用材と表現効果が密接に関係していることを理解している。 仮名の基本的な線質と用筆・運筆との関係を理解し表現している。	日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について、幅広く理解している。

(3) 「アクティブ・ラーニング」の視点から学習・指導方法の改善

書道において、「主体的な学び」を実現するためには、書の持つよさや美しさを創造的に捉え、自らの生活と関連付けたり、生活や社会における文字や書の働きについて考えたりする活動の充実を図り、それらの学習を振り返ることで、次の学びへとつなげていくことが大切である。

また、「対話的な学び」を実現するためには、感性を働かせ、作品について感じたことを確かな言葉で伝えたり、互いに批判し合ったりするなどの言語活動を通して、作品の意味や価値を考え、書を味わって深く捉える活動を充実させる必要がある。

さらに、「深い学び」を実現するためには、感性を働かせて、思いや意図に基づいて作品を構想し、表現を工夫していく表現の能力と、書のよさや美しさを感受し、創造的に味わう鑑賞の能力を相互に関連させながら、育成を目指す資質・能力を着実に身に付けていくことが重要である。

ここでは、書道Ⅰの題材「文房四宝」の学習において、グループによる話し合いを通して言語活動の充実を図り、生徒の理解をより一層深める授業の事例を示す。

実践例：書道Ⅰ【文房四宝】

単元名	文房四宝　～磨墨から平仮名を書く～　3／3時間
学習の目標	・平仮名の書から日本の書の美を感受する。（鑑賞の能力） ・平仮名特有の暢達した線や流れるような律動感を理解する。（創造的な書表現の技能）
学習プロセス	【習得】　【活用】　（【探究】）
アクティブ・ラーニングの視点	【主体的な学び】　（【対話的な学び】）　【深い学び】

学習活動及び学習内容	指導のポイント等
① 仮名文字に適した濃度の墨を磨る。 ② 基本的な筆遣いを学ぶ。 ③ 基本的な運筆を確認する。 （個人）	① 鋒鋩の感触を体感させながら、丁寧にゆっくり磨るよう指示する。 ② 筆の構え、持ち方、筆の働き等を確認させる。 ③ 右回転と左回転の線を題材にし、筆の動きや筆圧等を確認させる。 A 右回転と左回転の平仮名を教科書から抜き出し、発表させる。
④ 「いろはに・・・すん」の平仮名を鑑賞し、平仮名の元になった字母（漢字）を書き出す。 ⑤ グループ内で「いろはに・・・すん」までを、鑑賞しながらリレー書道を通して書く。 （ワークシート活用）1 ⑥ 完成した「いろはに・・・すん」をグループで鑑賞し成果と課題を伝え合う。 （ワークシート活用）2 ⑦ まとめを行う。 （ワークシート活用）3 （グループ）	④ 平仮名カードと元になった字母（漢字）カードを提示し、グループで話し合いながら、それぞれに当てはめさせる。 B 完成した班から、教科書を使用し字母の確認を行い完成させる。 ⑤ グループ全員で「いろはに・・・すん」までを仮名筆で完成させる。また、自己評価と感想をワークシートへ記入させる。 C グループ内で声を掛け合いながら、線の太さ・流れ・細部に気を付けさせる。 ⑥ ワークシートを活用し、グループ内で話し合った成果や課題を全体へ発表する。 ⑦ 日本の伝統文化である「仮名」を学んだことで感じ取ったことを伝え、まとめさせる。